

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年4月8日

【四半期会計期間】 第77期第3四半期(自 平成25年12月1日 至 平成26年2月28日)

【会社名】 宝印刷株式会社

【英訳名】 TAKARA PRINTING CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堆 誠一郎

【本店の所在の場所】 東京都豊島区高田三丁目28番8号

【電話番号】 03(3971)3101(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長兼情報企画部担当 若松 宏明

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区高田三丁目28番8号

【電話番号】 03(3971)3101(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長兼情報企画部担当 若松 宏明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第76期	第77期	第76期
		第3四半期 連結累計期間	第3四半期 連結累計期間	第76期
会計期間		自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日	自 平成25年6月1日 至 平成26年2月28日	自 平成24年6月1日 至 平成25年5月31日
売上高	(千円)	8,396,689	9,103,753	11,426,432
経常利益	(千円)	562,300	1,117,372	829,608
四半期(当期)純利益	(千円)	309,010	669,749	460,760
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	498,579	794,046	806,769
純資産額	(千円)	11,969,360	12,952,723	12,392,242
総資産額	(千円)	13,618,511	15,135,961	15,386,936
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	26.49	57.43	39.51
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	87.5	84.0	79.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,157,177	1,056,530	1,034,081
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	372,178	261,675	555,687
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	310,133	333,211	331,391
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	4,977,669	5,499,833	5,038,190

回次		第76期	第77期
		第3四半期 連結会計期間	第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日	自 平成25年12月1日 至 平成26年2月28日
1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)	20.97	10.17

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、企業収益や雇用情勢の改善が見られるなど、景気は緩やかに回復しております。

こうした状況のもと、ディスクロージャー関連事業に関係が深い株式市場につきましては引き続き日経平均株価が高水準で推移しており、また、株式市場の活況を受けIPO（新規上場）社数の増加も見られるなど、明るい材料も見え始めております。

このような状況を踏まえ、当社グループはこれまで培ってきたディスクロージャービジネスの強みを活かし、IR関連やアジアへの展開など、新たなビジネスモデルを模索し構築を進めてまいりました。

当社グループは、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであります。売上高につきましては、金融商品取引法関連製品、会社法関連製品、IR関連製品、その他製品に区分して記載しております。

売上高

当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比707百万円(8.4%)増加し、9,103百万円となりました。

これを製品区分別に説明いたしますと、次のとおりであります。

- ・ 金融商品取引法関連製品につきましては、競争激化の影響で有価証券報告書や四半期報告書の売上が減少したものの、株式市場の活況を受けファイナンス案件が増加したため、目論見書等の売上が増加しました。また、法定開示書類作成支援ツールX-Smart.シリーズの導入顧客数の増加などにより、前年同四半期比238百万円(6.9%)増加し、3,682百万円となりました。
- ・ 会社法関連製品につきましては、株主総会招集通知の早期発送により、売上が前期に前倒しになったため、前年同四半期比45百万円(3.2%)減少し、1,372百万円となりました。
- ・ IR関連製品につきましては、事業報告書の売上が増加したことなどにより、前年同四半期比258百万円(9.6%)増加し、2,958百万円となりました。
- ・ その他製品につきましては、株主優待用の印刷物や原稿作成コンサルティングの受注が増加したことなどにより、前年同四半期比255百万円(30.5%)増加し、1,090百万円となりました。

営業利益

売上原価率の低減により、営業利益は前年同四半期比506百万円(99.1%)増加し、1,017百万円となりました。

経常利益

営業外損益は投資事業組合運用益を44百万円計上したことなどにより、前年同四半期の51百万円のプラスから、99百万円のプラスとなりました。その結果、経常利益は前年同四半期比555百万円(98.7%)増加し、1,117百万円となりました。

四半期純利益

税金等調整前四半期純利益は前年同四半期比586百万円(106.7%)増加し、1,136百万円となりました。四半期純利益は、前年同四半期比360百万円(116.7%)増加し、669百万円となりました。

なお、当社グループの売上高はお得意様の決算期が3月に集中していることに伴い季節的変動があり、第1四半期の売上高が他の四半期に比べて多くなる傾向があります。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて517百万円(6.3%)減少し、7,699百万円となりました。これは、現金及び預金が461百万円、仕掛品が150百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が1,185百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて266百万円(3.7%)増加し、7,436百万円となりました。これは、無形固定資産が194百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて250百万円(1.6%)減少し、15,135百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて913百万円(36.8%)減少し、1,570百万円となりました。これは、買掛金が488百万円、未払費用が599百万円それぞれ減少し、賞与引当金が231百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて102百万円(20.0%)増加し、612百万円となりました。これは、退職給付引当金が128百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて811百万円(27.1%)減少し、2,183百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて560百万円(4.5%)増加し、12,952百万円となりました。これは、主として四半期純利益669百万円の計上による増加と剰余金の配当233百万円による減少であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ461百万円(9.2%)増加し、5,499百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は前年同四半期に比べ100百万円(8.7%)減少し、1,056百万円となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,136百万円及び売上債権の減少額1,186百万円であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額484百万円及び未払費用の減少額599百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ110百万円(29.7%)減少し、261百万円となりました。

これは、主に有形・無形固定資産の取得による支出434百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ23百万円(7.4%)増加し、333百万円となりました。

これは、主に配当金の支払額231百万円及びリース債務の返済による支出93百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

基本方針の内容の概要

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありませんが、当社取締役会は、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じる可能性があるかと判断されるような当社株式の大量取得行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えます。

したがって、当社は、当社株式に対する買付が行われた際に、株主の皆様が買付に応じるか否かを判断するためや当社取締役会が代替案を提案するために、必要な情報や時間を確保したり、買付者と

交渉を行うことを可能とすること等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買付行為を抑制するための枠組みが必要であると考えております。

取組みの具体的な内容の概要

イ 会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み
当社グループはこれまで進めてきた中期経営計画およびCSR経営を引き続き継続するとともに、攻めの経営を断行することにより持続的成長を実現させてまいります。

当社は、株式公開を目指した昭和63年頃から組織的な運営を行うため、諸規程の整備、運用、文書化の推進および内部監査を行い業務の改善に努めるとともに、利益計画を作成してまいりました。その精度を更に高めるため当社を取り巻く内部環境および外部環境の分析を基に、各ステーク・ホルダーにも配慮した経営計画の必要性を感じ、中期経営計画を策定することといたしました。その後、社会・環境・経済のトリプル・ボトムラインを意識した目標を加え、継続的に中期経営計画を策定しております。

その実行計画として各年度予算を策定し、全社的な目標を設定のうえ、各部門でその具体策をまとめ、社訓とともに、これに則した経営を展開し、着実な成長を実現してまいりました。

一方で、当社は、機密性または秘匿性の高い企業のディスクロージャー書類の印刷等を専門とする会社でありますので、専門的な知識はもとより、情報管理体制、品質管理体制などが重視されます。そのため、当社は平成12年6月にISOの品質規格（ISO9002：1994）認証を全社に先駆け、工場において取得し、平成16年には全社において、品質規格（ISO9001：2000）ならびに環境規格（ISO14001：2004）認証を取得いたしました。

また、機密性または秘匿性の高い情報を扱うため、プライバシーマークの取得、ならびに情報セキュリティに対応するための、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証を範囲を限定して取得するとともに、世界的な環境問題に対する配慮から「森林認証」などの国際認証を取得したほか、日本印刷産業連合会が認定するグリーンプリンティングを取得するなど、それぞれが要求するマネジメントシステムをCSR運用マニュアルとそれに付随する各種の規定を定め、一体化して運用しております。

ロ 基本方針に照らして不適切な者が支配を獲得することを防止するための取組み

当社は、平成19年8月23日開催の当社第70回定時株主総会において、当社の企業価値および株主共同の利益を確保し、または向上させることを目的として、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）を導入いたしました。

その後、平成22年8月20日開催の当社第73回定時株主総会の決議により継続しています。（以下継続後の対応策を「旧プラン」といいます。）

仮に当社株式に対する買付その他これに類似する行為またはその提案（以下総称して「買付」といいます。）が行われた場合、買付を行う者またはその提案者（以下総称して「買付者」といいます。）に対し、遵守すべき手続を明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報および時間ならびに買付者との交渉の機会の確保をしようとするものであります。当社は、基本方針に照らして、当社の企業価値および株主の皆様との共同の利益を明白に侵害するおそれのある買付者によって、当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じることを未然に防止しようとするものであります。

なお、旧プランは、平成25年8月23日開催の当社第76回定時株主総会の終結の時までとされておりましたが、平成25年7月3日開催の取締役会において、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）を継続することを決議し、同定時株主総会にて株主の皆様のご承認をいただきました。（以下変更後のプランを「本プラン」といいます。）

取組みの具体的な内容に対する当社取締役会の判断およびその理由

イ 買収防衛策に関する指針の要件をすべて充足していること

本プランは、当社基本方針に沿い、関係諸法令、裁判例、株式会社東京証券取引所の定める買収防衛策の導入に係る規則および「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」（平成17年5月27日 経済産業省・法務省）の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）、ならびに「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」（平成20年6月30日 企業価値研究会）の定める指針の内容を充足するものです。

ロ 株主意思の重視

本プランは、平成25年7月3日開催の当社取締役会において決議され、平成25年8月23日開催の当社第76回定時株主総会において承認されたことをもって導入されたものです。

また、本プランの有効期間は約3年間に限定されていること、さらに、当社取締役の任期は1年とされていることから、取締役の選任議案を通じて、1年ごとに株主の皆様のご意思が反映されることとなります。

ハ 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

本プランでは、取締役を監督する立場にある社外取締役、社外監査役または弁護士・大学教授等の社外有識者からなる特別委員会を設置し、取締役会は特別委員会の勧告に従い本プランの発動または不発動を決議するという手続を採用することにより、当社経営陣の恣意的判断を排し、当社の企業価値および株主共同の利益の維持・向上に資する公正な運営が行われる仕組みが確保されております。

また、特別委員会の判断の透明性を一層高めるため、買付者から提出された買付説明書の概要、買付者の買付内容に対する当社取締役会の意見、代替案の概要、その他特別委員会が適切と判断する事項を、原則として株主の皆様に対し速やかに情報開示を行うことといたしております。

ニ 本プラン発動のための合理的な客観的要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されております。これにより、当社取締役会による恣意的な発動が防止される仕組みになっております。

ホ 第三者専門家の意見の取得

特別委員会は、当社の費用で、公認会計士、弁護士、コンサルタント、フィナンシャル・アドバイザー等の専門家など、独立した第三者の助言を得ることができるため、特別委員会による判断の公正さ、客観性は一層強く担保されるといえます。

ヘ デッドハンド型・スローハンド型の買収防衛策ではないこと

本プランは、その有効期間の満了前であっても、当社取締役会の決議によって廃止することができるため、いわゆるデッドハンド型買収防衛策ではありません。

また、当社の取締役の任期は1年であり、期差任期制ではありませんので、いわゆるスローハンド型の買収防衛策でもありません。

当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の詳細につきましては、当社ホームページ（<http://www.takara-print.co.jp/>）に記載しておりますので、ご参照願います。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

なお、当社グループの売上高はお得意様の決算期が3月に集中していることに伴い季節的変動があり、第1四半期の売上高が他の四半期に比べて多くなる傾向があります。

(8) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年4月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,936,793	12,936,793	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	12,936,793	12,936,793		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年12月1日～ 平成26年2月28日		12,936		2,049,318		1,998,315

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,273,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,591,800	115,918	
単元未満株式	普通株式 71,193		
発行済株式総数	12,936,793		
総株主の議決権		115,918	

(注) 1 上記「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,900株(議決権49個)含まれております。

2 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年11月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 宝印刷株式会社	東京都豊島区高田 3丁目28番8号	1,273,800		1,273,800	9.84
計		1,273,800		1,273,800	9.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年12月1日から平成26年2月28日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年6月1日から平成26年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、和泉監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,707,389	5,168,888
受取手形及び売掛金	2,341,577	1,155,848
有価証券	335,301	340,445
仕掛品	669,439	820,042
原材料及び貯蔵品	28,942	31,312
繰延税金資産	63,414	131,342
その他	72,757	52,834
貸倒引当金	2,105	1,037
流動資産合計	8,216,717	7,699,677
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,079,155	3,087,111
減価償却累計額	2,200,094	2,239,971
建物及び構築物(純額)	879,060	847,139
機械装置及び運搬具	1,556,264	1,394,173
減価償却累計額	1,241,927	1,142,714
機械装置及び運搬具(純額)	314,337	251,458
土地	3,186,649	3,154,695
その他	387,507	396,824
減価償却累計額	267,459	292,962
その他(純額)	120,047	103,862
有形固定資産合計	4,500,095	4,357,156
無形固定資産		
ソフトウェア	517,435	939,442
ソフトウェア仮勘定	284,378	57,009
その他	14,137	13,730
無形固定資産合計	815,951	1,010,183
投資その他の資産		
投資有価証券	1,611,602	1,619,761
繰延税金資産	65,856	74,606
その他	181,352	378,210
貸倒引当金	4,638	3,634
投資その他の資産合計	1,854,172	2,068,944
固定資産合計	7,170,219	7,436,284
資産合計	15,386,936	15,135,961

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	730,198	242,182
1年内返済予定の長期借入金	10,476	10,476
リース債務	93,565	-
未払法人税等	240,699	339,067
未払費用	971,040	371,533
賞与引当金	-	231,260
役員賞与引当金	19,264	17,943
その他	419,149	358,438
流動負債合計	2,484,393	1,570,902
固定負債		
長期借入金	39,730	31,873
退職給付引当金	379,450	508,415
役員退職慰労引当金	91,120	72,047
固定負債合計	510,301	612,335
負債合計	2,994,694	2,183,238
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,049,318	2,049,318
資本剰余金	1,998,867	1,998,867
利益剰余金	8,967,185	9,403,673
自己株式	1,022,404	1,022,707
株主資本合計	11,992,968	12,429,152
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	231,307	289,592
その他の包括利益累計額合計	231,307	289,592
少数株主持分	167,965	233,977
純資産合計	12,392,242	12,952,723
負債純資産合計	15,386,936	15,135,961

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
売上高	8,396,689	9,103,753
売上原価	4,990,208	5,051,121
売上総利益	3,406,480	4,052,631
販売費及び一般管理費		
販売促進費	127,470	161,265
運賃及び荷造費	121,596	132,782
役員報酬	97,893	109,340
給料及び手当	1,406,038	1,453,032
賞与引当金繰入額	121,159	124,467
役員賞与引当金繰入額	18,872	17,943
退職給付費用	202,064	191,473
役員退職慰労引当金繰入額	5,193	5,343
福利厚生費	259,378	261,341
修繕維持費	35,644	25,161
租税公課	36,064	41,839
減価償却費	49,155	47,007
賃借料	74,483	77,715
その他	340,256	385,987
販売費及び一般管理費合計	2,895,270	3,034,700
営業利益	511,209	1,017,930
営業外収益		
受取利息	1,147	1,178
受取配当金	15,835	30,009
不動産賃貸料	10,692	10,700
投資事業組合運用益	-	44,799
持分法による投資利益	20,667	-
その他	16,095	14,713
営業外収益合計	64,438	101,401
営業外費用		
支払利息	3,481	1,706
投資事業組合運用損	9,597	-
その他	268	253
営業外費用合計	13,347	1,959
経常利益	562,300	1,117,372

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
特別利益		
固定資産売却益	-	9,208
投資有価証券売却益	-	11,608
特別利益合計	-	20,817
特別損失		
固定資産除却損	12,085	1,229
会員権売却損	303	-
施設利用権評価損	-	175
特別損失合計	12,389	1,404
税金等調整前四半期純利益	549,911	1,136,785
法人税、住民税及び事業税	354,738	509,978
法人税等調整額	127,817	108,953
法人税等合計	226,920	401,024
少数株主損益調整前四半期純利益	322,990	735,761
少数株主利益	13,980	66,011
四半期純利益	309,010	669,749

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	322,990	735,761
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	175,588	58,284
その他の包括利益合計	175,588	58,284
四半期包括利益	498,579	794,046
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	484,598	728,034
少数株主に係る四半期包括利益	13,980	66,011

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	549,911	1,136,785
減価償却費	331,837	331,266
引当金の増減額(は減少)	386,624	337,759
受取利息及び受取配当金	16,983	31,187
支払利息	3,481	1,706
固定資産除却損	12,085	1,229
売上債権の増減額(は増加)	938,873	1,186,732
たな卸資産の増減額(は増加)	361,724	152,972
仕入債務の増減額(は減少)	524,879	484,788
未払費用の増減額(は減少)	549,574	599,507
投資事業組合運用損益(は益)	9,597	44,799
持分法による投資損益(は益)	20,667	-
その他	14,884	248,742
小計	1,467,147	1,433,483
利息及び配当金の受取額	16,983	31,187
利息の支払額	3,481	1,471
法人税等の還付額	3,863	-
法人税等の支払額	327,335	406,669
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,157,177	1,056,530
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	136,382	27,381
有形固定資産の売却による収入	-	43,050
無形固定資産の取得による支出	200,186	407,286
投資有価証券の取得による支出	73,957	2,912
投資有価証券の売却による収入	-	35,759
投資事業組合への出資による支出	-	25,000
投資事業組合からの分配による収入	37,547	128,192
その他	798	6,098
投資活動によるキャッシュ・フロー	372,178	261,675
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	7,857
リース債務の返済による支出	56,399	93,565
配当金の支払額	253,669	231,485
自己株式の取得による支出	118	303
その他	53	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	310,133	333,211
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	474,865	461,643
現金及び現金同等物の期首残高	4,502,804	5,038,190
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,977,669	5,499,833

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成26年2月28日)	
(賞与引当金)	前連結会計年度においては、従業員賞与の確定額を未払費用として500,193千円計上しておりましたが、当第3四半期連結累計期間は支給額が確定していないため、賞与支給見込額のうち当第3四半期連結累計期間負担額を賞与引当金として計上しております。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成25年6月1日 至 平成26年2月28日)

当社グループの売上高はお得意様の決算期が3月に集中していることに伴い季節の変動があり、第1四半期の売上高が他の四半期に比べて多くなる傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成26年2月28日)
現金及び預金	4,646,917千円	5,168,888千円
担保提供定期預金	4,500千円	4,500千円
有価証券勘定のうち マネー・マネージメント・ファンド	335,252千円	335,445千円
現金及び現金同等物	4,977,669千円	5,499,833千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年7月3日 取締役会	普通株式	139,961	12.00	平成24年5月31日	平成24年8月3日	利益剰余金
平成24年12月27日 取締役会	普通株式	116,633	10.00	平成24年11月30日	平成25年1月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年6月1日 至 平成26年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月3日 取締役会	普通株式	116,631	10.00	平成25年5月31日	平成25年8月2日	利益剰余金
平成25年12月26日 取締役会	普通株式	116,629	10.00	平成25年11月30日	平成26年1月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年6月1日至平成25年2月28日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年6月1日至平成26年2月28日)

当社グループは、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	26円49銭	57円43銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	309,010	669,749
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	309,010	669,749
普通株式の期中平均株式数(株)	11,663,343	11,662,999

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第77期(平成25年6月1日から平成26年5月31日まで)中間配当について、平成25年12月26日開催の取締役会において、平成25年11月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	116,629千円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年1月27日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年4月4日

宝印刷株式会社
取締役会 御中

和泉監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 松 藤 雅 明 印

業務執行社員 公認会計士 飯 田 博 士 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている宝印刷株式会社の平成25年6月1日から平成26年5月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年12月1日から平成26年2月28日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年6月1日から平成26年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、宝印刷株式会社及び連結子会社の平成26年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。